

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 30 日

評価対象事業	評価者	市民活動部観光商工課担当課長	小澤 圭介
市民-17 観光協会支援事業	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	主管課	観光商工課
		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	観光	施策の方針
			地域が一体となった観光振興の推進

1 事業の目的

対象	鎌倉市観光協会・観光客等
意図	様々な観光主体のネットワークの中心となり、観光宣伝と観光客誘致を行う鎌倉市観光協会を支援するため。
効果	観光客にとっては、観光目的を達することによる満足感の高揚が図られ、市にとっては、産業振興、雇用確保などの経済的波及効果や地域の活性化につながる。

2 平成27年度に実施した事業の概要

鎌倉市観光協会の運営や鎌倉まつり、薪能等の実施事業に対する支援を行い、鎌倉の観光振興の充実を図った。
--

3 事業費等基礎データ

データ区分	26年度決算		27年度決算		データ区分	28年度当初予算		備 考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等の事業の対象者数	177,464人	80,368世帯	177,243人	80,676世帯	人口	176,869人	80,928世帯	・各年3月31日 (住民基本台帳)
運営資源状況	事業の対象者数				事業の対象者数			
	決算値(千円)	42,324	42,918		当初予算(千円)	48,726		
	国県支出金				国県支出金			
	地方債				地方債			
	その他				その他			
	一般財源	42,324	42,918		一般財源	48,726		
	人員配置数	0.1	0.1		人員配置数	0.1		
事業経費運営	人件費(千円)	764	808		人件費(千円)	840		
	総事業費(千円)	43,088	43,726		総事業費(千円)	49,566		
	市民1人当りの経費(円)	243	247		市民1人当りの経費(円)	280		
	対象者1人当りの経費(円)				対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	今後とも市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
公 平 性	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
	受益者負担は公正・公平か	△-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
	△-協働未実施	協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	⇒ ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他
	見直し類の	見直し類の
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 観光協会は、自主財源確保に向けた努力は行っているものの、財政基盤を支えるまでには至っておらず、また2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人観光客の増加を含めた多方面に渡る事業展開が求められることから、予算規模は必要に応じ拡大の方向性も検討していく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	今後増加が見込まれる外国人観光客を含め、多くの観光客が訪れる鎌倉の観光施策の中核を担う組織として、観光協会に対し財政面をはじめ様々な支援、連携を行っていく必要がある。	

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	観光協会の、さらなる自主財源確保に向け、新規事業の展開の検討を継続する。 着地型観光事業については、引き続き実施を促していく。 鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を整理していく。		
課題解決のために行った平成27年度の取組	着地型観光事業について、観光協会が平成27年秋、冬に鎌倉プレミアムツアーを企画、実施した。		☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	自主財源の確保について、引き続き新規事業の展開の検討を継続する。 鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を整理していく。 MICEの活用等外国人観光客の誘致に資するインバウンド振興や観光客の分散化に資する着地型観光商品の開発等に取り組む。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	入込観光客数等(平成26年) (単位:千人)								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市	横浜市
他市実績	21,960	17,738	2,627	7,075	4,514	7,847	800	5,707	44,258

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	県内全市町村対象に行う入込観光客数調査において、鎌倉市は横浜市に次ぐ延観光客が訪れており、観光案内所利用者も相対的に他市町村に比べ多いことが伺える。								
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の 内容	鎌倉に来る前の期待に対する満足度(来訪者アンケート+WEBアンケート)					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29		H30	H31		
当該事業の実施により、観光客の満足度を向上させるため。	目標値	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%		85.0%	85.0%		
	実績値	79.2%	79.5%							
	達成率	93%	93.5%							

指標の 内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29		H30	H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

指標の 内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29		H30	H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方										
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☒ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	--